

事業所名

児童支援センターえがお・インター前・芦田

支援プログラム(参考様式)

作成日

7年

2月

1日

法人(事業所)理念	私たちは子どもから学び、子どもを通して成長させていただくことを常に意識し、日々すべての出会いに感謝しながら、子どもたちの「できた」を積み重ねて自己肯定感を高めることを支援の柱とし、自己覚知しながら福祉に邁進することを理念とする。						
支援方針	発達支援コーチの有資格者(全職員)及び、ドイツのスポーツ科学の運動理論を元に療育を行います。 運動発達の専門的集団として、地域にも開かれた運動療育を展開していきます。 すべての子どもが安心・安全で自由に遊べる世の中を、慈愛の精神で構築していきます						
営業時間	9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり	なし
支援内容							
本人支援	健康・生活	身体の発達の基本となる脊柱の発達から、身体をしっかりと運動を通して作っていきます。 基本的な生活スキルの獲得も、自由な活動の中から自分で考える力を創っていきます。 また年齢が高い子たちや1日の流れが不安な子たちには、視覚支援を段階的に行っていきます。					
	運動・感覚	運動感覚や五感による感覚支援は、運動発達と大きなつながりをもっており、指先を使うための肩甲骨から肩及び肘から手首の流れや、姿勢のための足裏から膝・股関節・脊柱への繋がりが及び、両足(相同)から片足(同側)へつながる支援から上肢と下肢の運動を行って、身体がスムーズに無意識下でコントロールできるようにしていきます。 柔軟性も同時に整える運動療育をワクワクしながら遊びを通して行います。 感覚は脳幹と大きなつながりがあるため、身体への支援が感覚及び感情へとつながっていく流れも確認していきます。					
	認知・行動	ワーキングメモリーや時間や数の概念や認知の偏りに対応できる正中線超える脳科学的運動療法を行い、視覚の発達、認知の発達を行っていきます。 身体の発達は人間が動物であった名残から必要不可欠であり、身体の発達無くして認知能力の向上はありえないと考えて活動しています。 発育発達の流れや、運動発達の流れ、人間の発達の流れを理解することで、行動や認知の発達にはしっかりと対応できていきます。					
	言語 コミュニケーション	言語は動きのリズムの獲得後につながっていくという運動発達スポーツ科学の理論の元、まずは身体のリズムを創っていきながら、呼吸や嚥下の運動アプローチを行っていきます。 コミュニケーション能力はボール遊びから獲得できるというドイツの運動理論(バルシューレ)を元に、コミュニケーション能力を高めていきます。 脳の発達にはワクワクが必要不可欠であり、子どもたちの発達はどれだけワクワクできたがポイントとなり、言語もコミュニケーション能力もワクワクが基本となります。					
	人間関係 社会性	人間関係や社会性はコミュニケーション能力のボール遊びを土台として、まずは安心安全を確保しながら、人に頼っても良いという感情と生きるための土台の支援を行います。 具体的には外で五感の刺激を受けながら集団での社会性と相互の人間関係を高めていきます。					
家族支援	日々の相談から、年6回くらいある勉強会やお茶会の実施 年5回ある祝日や日曜日を使った親子遊び及び講演会の実施	移行支援	さまざまなスポーツを通して、未来への自信をつけていきます。				
地域支援・地域連携	地域の幼稚園への運動遊び教室の派遣事業 親子遊び教室、子育て教室、0歳児発育発達教室の実施(月2・3回)	職員の質の向上	月1回の研修会の実施 発達支援コーチの講座の受講及び再受講を毎年数回実施 運動発達理解のための研修会の実施				
主な行事等	子どものみ・・・長期休みは基本公園や地域に出かけて五感の発達を促します。6月のアマゴつかみ、7月と9月の田んぼでの泥遊び、7月・8月の夏間の川遊び(毎日)、未就学児はプール遊び(7月から9月中旬まで毎日)、クリスマスイベント、山登りイベント、泡イベント、お正月遊びイベント、ボール遊びイベント、焼き芋イベント、節分イベント 毎週土曜日の放課後等デイサービスは外出イベントやさまざまなイベントを行います。 親子イベント・・・夏休み親子水遊びイベント、親子遊びイベント(年3回)、運動会(R6年度は1回、R5年度は2回) 親のみのイベント・・・保護者勉強会(年3回)、保護者お茶会(年3回)、保護者用講演会(年2回)						